

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(平成25年度事業)

平成26年10月

大郷町教育委員会

.....

～ は じ め に ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロール※により、政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映を図るものとして、戦後わが国に導入され、地方教育行政の基本的な制度として定着しています。

また、地方分権の進展や教育に関するニーズの高まり、教育委員会の担任業務の多様性や専門性などから制度創設時から現在に至るまで、随時、制度改正を重ねてきました。

このような中、平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月から施行されました。

この改正法の大きな柱の一つであります「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、効果的な教育行政に資するとともに住民への説明責任を果たすため、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務付けられました。

本町教育委員会においては、毎月、教育委員会会議を開催し、教育行政に係る基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施策に関する研修、教育施設への視察等を行うなど、事務局と連携しながら、積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めてきました。

さらには、教職員との教育懇談会を開催するなど、さまざまな関係組織と連携しながら、開かれた教育委員会の推進に取り組んでいるところです。

本報告書では、今後のさらなる効果的な教育行政の推進に資するために、学識経験者のご意見等をいただきながら、平成25年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果を報告いたします。

平成26年10月

大郷町教育委員会

.....

※「レイマンコントロール」は、専門家だけの判断に偏ることなく、住民のニーズを適切に施策に反映させる仕組みである。

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書
(平成25年度事業)

目 次

I	点検・評価の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	点検・評価の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	点検・評価の対象及び方法・・・・・・・・・・	1
3	学識経験者の知見の活用・・・・・・・・・・	1
II	教育基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1	大郷町教育基本姿勢・・・・・・・・・・	2
2	平成25年度教育基本方針・・・・・・・・・・	2
3	平成25年度教育重点施策・・・・・・・・・・	2
III	教育委員会の活動状況 ・・・・・・・・・・	8
IV	教育重点施策等の点検・評価 ・・・・・・・・	10
1	学校教育の充実・・・・・・・・・・	10
(1)	幼児教育(幼稚園)・・・・・・・・・・	10
(2)	義務教育(小学校)・・・・・・・・・・	14
(3)	義務教育(中学校)・・・・・・・・・・	18
(4)	学校給食・・・・・・・・・・	22
2	生涯学習の推進・・・・・・・・・・	24
(1)	社会教育の充実・・・・・・・・・・	24
(2)	公民館事業の推進・・・・・・・・・・	28
(3)	社会教育施設・・・・・・・・・・	39
(4)	社会教育指導者との連携・・・・・・・・・・	40
(5)	社会教育団体の活性化・支援・・・・・・・・	40
3	生涯スポーツの推進・・・・・・・・・・	41
(1)	生涯スポーツの活性化・・・・・・・・・・	41
(2)	生涯スポーツ指導者の支援・・・・・・・・・・	46
(3)	生涯スポーツ団体の活性化支援・・・・・・・・	46
(4)	生涯スポーツ施設の整備と活用促進・・・・・	47
4	文化財・・・・・・・・・・	48
(1)	文化財の理解・・・・・・・・・・	48
(2)	文化財の保存・継承・・・・・・・・・・	48
(3)	文化財関係機関(団体)の連携・・・・・・・・	49
V	点検・評価に対する学識経験者の意見 ・・・・・	50

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、本町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価を実施する。

2 点検・評価の対象及び方法

本年の点検・評価の対象事業は、平成25年度教育基本方針に基づく重点施策や具体的な事業等を対象とし、その主な取り組み状況についての点検及び評価を実施した。

本町教育委員会による点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を本町議会に提出するとともに、町民に公表を行う。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の実施にあたっては、学識経験を有する3名の方々に依頼し、点検・評価の内容についての意見を伺った。

氏 名	役 職 等
日 下 隆 郎	大郷町区長会会長、第8行政区長、 元大郷町教育委員会教育次長
若 松 ヨ シ 子	大郷町人権擁護委員、元大郷町立大松沢中学校長、 元大郷町乳幼児総合教育施設長兼大郷幼稚園長
渡 邊 健 一 郎	大郷町文化協会会長、大郷町文化財保護審議会委員 おおさと歴史探訪会事務局、 大郷支倉太鼓つねなが連代表

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 教育基本方針

大郷町教育基本姿勢

おおさとは、美しい山河、豊穡な土地に恵まれ、農業を基幹産業にしてきた。また、仙台市、塩竈市等の都市に近く、以前から多くの人々が通学・通勤してきた。そうした特性を生かし、「農村」と「都市」そして「人」が共生する『田園都市づくり』を推進している。

その礎は、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育」であり、故郷の心を大切にして、新しい時代を拓く『心豊かでたくましく生きる人間の育成』を一層充実させるため、学校や家庭及び地域社会が協働しながら教育を推進する。

平成25年度教育基本方針

夢を描き 創造し 健やかで 活力ある田園都市づくりを目指し

自分を磨き、豊かな学びを育む生涯学習の推進

創意と活力に満ちた、特色ある学校教育の推進

芸術・文化活動の推進と伝統文化の保存・継承

健康・夢・触れ合いを育む生涯スポーツの推進

を重点に、学校・家庭・地域の協働のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。

平成25年度教育重点施策

◇ 生涯学習

町民一人一人が、生涯を通し自分を磨き、豊かな生活と、活力と潤いのあるまちづくりができる、豊かな学習体制の充実を図る。

1 学校教育

学校教育は、人間尊重の精神に立ち、社会の変化に適切に対応できる、豊かな心・健やかな体・確かな学力を持つ子どもの教育を目指して行う。

そのために、学校が創意工夫し、子どもの多様な能力や学習意欲を高め、自立して生きるための基礎・基本の確実な定着を図り、夢と志を持ち、その実現に向け努力する子どもの育成に努める。

(1) 幼児教育

幼稚園教育と保育園保育の特性を理解し、尊重し、一体化を推進しながら、幼児教育の充実に努める。

- ① 保育園と一体化した教育の推進
- ② 学びの連続性を踏まえた教育の推進
- ③ 特別支援教育の充実
- ④ 人・歴史・文化との触れ合いの推進
- ⑤ 教職員の資質の向上
- ⑥ 関係機関との連携強化
- ⑦ 教育環境の充実

(2) 義務教育

町立学校の教育課程に基づき、連携して、一貫教育の推進を図る。

豊かな心、確かな学力と体力を基に、夢と志を持ち、その実現に向け、自ら学び自ら考えて行動できる児童・生徒の育成に努める。

- ① 特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進
 - 1) 新指導要領に基づく教育課程の編成と実践
 - 2) 学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進
 - 3) 特別支援教員補助者（町費）・スクールカウンセラー（県費）の配置
 - 4) 地域文化との触れ合いによる郷土愛の育成
 - 5) ボランティアによる登下校指導
- ② 幼・小・中一貫教育の充実
 - 1) 子どもの特性の理解と、個に応じた継続的指導の推進
 - 2) 指導の重複を省いた効率的な指導の推進
 - 3) 子どもの校種間交流の推進
 - 4) 他校種の指導内容を理解する教員研修の充実
- ③ 豊かな人間性と生きる力の育成
 - 1) 生きる力を高める道徳教育の充実
 - 2) 志教育の推進と支援体制の整備
 - 3) 心が響きあう人間関係の樹立
 - 4) 学校不適応児童・生徒への指導充実
 - 5) 自然体験学習の推進と支援
 - 6) 自然・遺産等への畏怖心醸成

- ④ 確かな学力の向上
 - 1) 基礎基本を重視した教育課程の編成と実践
 - 2) 個の能力に応じた指導の工夫と実践
 - 3) 少人数指導の充実
 - 4) 宮城教育大学との連携による、課外指導の充実
 - 5) 読書の推奨と図書館教育の充実
 - 6) 保護者との連携を強化し、学ぶ意欲の高揚と家庭学習の推進
 - 7) 地域の人材活用
- ⑤ 確かな体力の育成
 - 1) 個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と実践
 - 2) 学校の環境を生かした体力づくり計画作成と実践
 - 3) 業間休憩での体力づくり推進
 - 4) 健康教育を通して、生涯スポーツの基礎・意欲を培う指導
 - 5) 食育指導の充実
 - 6) バス待機時間の身体活動推進
- ⑥ 特別支援教育の充実
 - 1) 障害に応じた特別支援教室の設置
 - 2) 障害・発達状況に応じた指導計画の立案と実践
 - 3) 特別支援教員補助者（町費）・スクールカウンセラー（県費）の配置
 - 4) 普通学級・地域との交流推進
 - 5) 関係機関との連携強化
- ⑦ 魅力ある教育環境の整備
 - 1) 安全で信頼される教育環境の整備
 - 2) 地域の教育力を生かした学習環境の創設
 - 3) 学習意欲を刺激する備品・教材・教具の整備
- ⑧ 教職員の資質向上
 - 1) 多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
 - 2) 使命感の高揚と実践能力の向上を図る研修の充実
 - 3) 危機管理能力を高める研修の推進
 - 4) 宮城教育大学との連携による指導改善研究推進

2 社会教育

町民が、いつでも身近で、望む学習が可能な生涯学習体制の整備を推進する。
協働教育プラットフォーム事業により、各種社会教育事業を展開する。

(1) 社会教育の充実

- ① 社会教育の活性化
 - 1) 各種講座の開設と、継続的活動の支援
 - 2) 生涯学習情報の発信
 - 3) 社会教育指導者の育成
 - 4) 家庭・地域が学校と連携した活動の推進
 - 5) 放課後子ども教室（郷子舎）の充実
- ② 芸術・文化活動の推奨
 - 1) 郷土芸能（無形文化財等）の継承と活動支援
 - 2) 学校と連携した郷土芸能の紹介と取組奨励
 - 3) 郷土芸能の指導者育成支援
 - 4) 郷土芸能の備品整備
 - 5) 文化協会との連携強化
 - 6) 町民劇場への活動支援
- ③ 家庭及び地域の教育力向上と活性化
 - 1) 各種家庭教育事業の開催と活動の継続支援
 - 2) 地域における指導者支援
 - 3) 各種情報の提供
 - 4) 食育の推進と家庭づくりの見直し推奨
- ④ 青少年教育の充実
 - 1) 各種研修会の開催と町外研修会への参加促進
 - 2) 年少指導者の育成と指導機会の提供
 - 3) 各種体験活動への参加促進
 - 4) 青少年教育指導者の組織化・活動支援
 - 5) 青年団体支援と各種事業への参加・協力推進
 - 6) 各種生涯学習・関連事業の情報発信
- ⑤ 公民館活動の充実
 - 1) 学習意欲が高まる魅力的な環境の整備
 - 2) ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進
 - 3) 各種団体の活動支援
 - 4) 出前事業の充実
 - 5) 指導者の研修充実

- 6) 地域に密着した活動の推進
- 7) 地域に根ざした分館活動の活性化支援
- 8) 読書活動の充実
 - ・蔵書の拡充
 - ・出前図書館の充実
 - ・司書職員の配置
 - ・図書室（館）の新設・移転の促進
 - ・分館の図書室機能保有促進

（２）社会教育施設

- ① 施設の整備・充実
 - ・大郷町文化会館
 - ・大郷町粕川社会教育センター
 - ・大郷町大松沢社会教育センター
 - ・大郷町町民体育館
 - ・大郷町総合運動場
 - ・大郷町B & G海洋センター
 - ・フラップ大郷2 1
 - ・大郷町自由広場
- ② 各施設利用手続きの一元化の促進

（３）社会教育指導者との連携

（４）社会教育団体の活性化・支援

3 生涯スポーツ

生涯健康で、活力に充ち、生きがいを感じて生活が送れるよう、誰もが参加できる事業の展開と、継続して活動ができる体制の実現に努める。

（１）生涯スポーツの活性化

- ① 生涯スポーツ振興長期計画の策定
- ② 青少年の夢を育む活動の支援
- ③ 町民の健康・体力の維持増進を図る活動の奨励と支援
- ④ 地域をつくるスポーツ活動の奨励
- ⑤ 生涯スポーツ団体との連携強化
- ⑥ 町・教育委員会の主催行事の活性化と、活動継続の支援

- ⑦ ニューススポーツの普及と継続支援
- ⑧ 出前活動の促進

(2) 生涯スポーツ指導者の支援

(3) 生涯スポーツ団体の活性化支援

(4) 生涯スポーツ施設の整備と活用促進

4 文化財

大郷町には、誇れる文化財が多く現存する。遺産を理解し、畏敬の念を持ち、保存・継承に努める。

(1) 文化財の理解

- ① 文化財紹介の情報発信
- ② 見学の機会提供と支援
- ④ 学校・各種団体等での文化財学習機会の拡充

(2) 文化財の保存・継承

- ① 保存施設・遺跡等の情報発信
- ② 収集、発掘、保存体制の整備
- ③ 遺跡の整備
- ④ 歴史民俗資料館の充実

(3) 文化財関係機関（団体）の連携

Ⅲ 教育委員会の活動状況

本町教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点的に取り組む施策を定め、これを基に各種の事業を展開している。

本町教育委員会においては、毎月1回の教育委員会定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催した。

さらに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加はもとより、学校訪問や視察、定例会終了後の研修等を積極的に行うなど、活発な活動を通じて教育行政の推進に努めてきた。

平成25年度における教育委員会の主な活動状況については、次のとおりである。

1 教育委員（平成25年度在籍者）

職名	氏名	任期
委員長	熊谷泰弘	平成21年6月25日～平成25年6月24日 平成25年6月25日～平成29年6月24日
委員長職務代行者	武田陽子	平成23年10月1日～平成27年9月30日
委員	高橋幸也	平成23年8月17日～平成25年11月30日 平成25年12月1日～平成29年11月30日
委員	武藤光広	平成23年8月17日～平成26年9月30日
委員(教育長)	鹿野毅	平成22年6月18日～平成26年6月17日

2 教育委員会活動

項目	回数	活動内容
教育委員会会議の開催	14回	定例会及び臨時会の開催 定例会12回、臨時会2回
教育委員会会議の傍聴者の状況	0人	傍聴者なし
議事録の公開、広報・公聴活動の状況	0件	会議録の開示請求0件
研修会への参加状況	4回	黒川郡町村教育委員会研修会 管内市町村教育委員会研修会 縣市町村教育委員・教育長研修会 東北六縣市町村教育委員・教育長研修会
学校等所管施設訪問	2回	小学校、中学校

会議の開催状況

区分	期 日	主 な 付 議 事 件
定例会	平成 25 年 4 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（特別支援教員補助者、学校給食センター運営委員、心身障害児就学指導審議会委員） ・ 準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
定例会	平成 25 年 5 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（スポーツ推進審議会委員、スポーツ推進委員、文化財保護審議会委員、協働教育プラットフォーム運営協議会委員）
定例会	平成 25 年 6 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長の選挙、委員長職務代行者の指定 ・ 人事案件（幼稚園臨時教諭、社会教育委員ほか 2 件） ・ 平成 25 年度教育費一般会計補正予算（第 1 号） ・ 町立幼稚園保育料等規則の一部改正ほか 2 件
臨時会	平成 25 年 7 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年度使用教科用図書採択計画
定例会	平成 25 年 7 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語指導助手（ALT）の委嘱 ・ 町スポーツ施設の管理運営規則の一部改正
定例会	平成 25 年 8 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年度使用教科用図書採択 ・ 児童生徒の出席停止に関する要綱の制定ほか 1 件
定例会	平成 25 年 9 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年度教育費一般会計補正予算（第 2 号） ・ 人事案件（特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭） ・ 準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
定例会	平成 25 年 10 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町立小中学校学力向上対策委員会設置要綱の制定
臨時会	平成 25 年 11 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の学校教育の課題と解決について
定例会	平成 25 年 11 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務事業点検・評価報告（平成 24 年度事業）
定例会	平成 25 年 12 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年度教育費一般会計補正予算（第 4 号）
定例会	平成 26 年 1 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（学校医、学校歯科医、学校薬剤師） ・ 町奨学資金貸与規則の一部改正
定例会	平成 26 年 2 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（スポーツ推進審議会委員、幼稚園長、幼稚園臨時教諭） ・ 平成 26 年度大郷町教育基本姿勢及び基本方針 ・ 県費負担教職員の任免等の内申ほか 2 件
定例会	平成 26 年 3 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（学校評議員、特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭、公民館分館長ほか 1 件） ・ 平成 25 年度教育費一般会計補正予算（第 6 号） ・ 平成 26 年度教育費一般会計予算ほか 1 件

IV 教育重点施策等の点検・評価

1 学校教育の充実

(1) 幼児教育（幼稚園）

教育重点施策1 「保育園と一体化した教育の推進」

平成25年度実施状況

○「大郷町の幼児を保育する」という共通認識のもと、幼稚園と保育園が同じ「めざす幼児像」を掲げ、両園の特質を生かしながら合同保育に取り組んでいる。

【めざす幼児像】

- ・ じょうぶな子ども
- ・ なかよくあそぶ子ども
- ・ がんばる子ども
- （元気いっぱい）
- （笑顔いっぱい）
- （夢いっぱい）

【交流活動】

○毎月、合同会議（両園・支援センター代表職員参加）を行い、行事や確認事項について話し合い、共通理解のもと教育活動を進めた。

○合同行事

- ①幼年消防クラブ任命式・巡回指導
- ②夏まつり保育参観
- ③不審者対応避難訓練
- ④総合避難訓練（通報・避難・消火訓練）
- ⑤遊び歌コンサート（つばさくん・歌のお姉さん&ごっしい 他）

○年長児交流保育・・・「すくすくタイム」

・年5回実施。ゲーム、合唱、劇の発表見学・運動遊びなど合同保育を行い交流を図った。

・両園の担任が話し合い、ねらい・内容・留意点・準備物などを検討、実施

評 価

○合同行事で、楽しい場や時間を共有したことにより、園児同士の親睦が深まった。特に、年長児は交流活動後、互いの活動に興味を示し、声を掛け合っていた。

○夏まつりは、両園の親子が一緒に参加する唯一の行事である。保護者同士互いに協力しあい、短い時間ではあるが交流を図る姿が見られた。

課題と今後の取組

○幼保一元化の動きに合わせて、各園の保育年限、預かり保育の担当、行事の際の一時預かり担当などについて、総合的に機能を改善する必要がある。

○夏まつりは参加者多数のため、人数制限を行っている。乳・幼児の年齢を考えると場所を移動しての開催は難しい。参加人数を増やしてほしいという保護者の希望に応えられない現状である。

教育重点施策2 「学びの連続性を踏まえた教育の推進」

平成25年度実施状況

- 小学校への円滑な接続を可能にし、幼稚園教育の成果が引き継がれるために。
 - ・話を聞く姿勢、自分の思いを言葉で表現する、友達と協力する、基本的な生活習慣の確立など、日々保育の中で指導し、態度の育成や意識の向上に努めた。
 - ・小学校との連携・幼・小運動会への参加、郷の子学級との交流、一日入学など。
- 幼稚園と家庭との生活の連続性を踏まえるために。
 - ・参観日の設定。メール配信、連絡ノート、各「便り」を利用した情報交換
 - ・幼稚園教育評価アンケートの実施と回答。次年度に向けての反省・検討

評 価

- 保護者から幼稚園教育評価アンケートをとったことにより、保護者の思いがわかり日頃の保育の反省や幼稚園の対応を検討することができた。また、保護者の皆様にも家庭教育を見直すよい機会になったようである。

課題と今後の取組

- 質の高い保育をめざし、保護者のニーズに応えるための活動内容の検討と実践
- 小学校が遠いため連携しにくい状況にある。幼稚園から小学校に円滑な接続を行うためには、交流活動実践の検討と工夫、職員同士の情報交換の実施など検討が必要である。

教育重点施策3 「特別支援教育の充実」

平成25年度実施状況

- 幼児の障害・発達の理解と、指導計画の立案、指導実践
 - ・職員を増員し、保健師や臨床心理士と連携し、指導助言を受け個別支援を実施
 - ・児童相談所の発達相談に同行し、保護者と共に個別支援方法の指導を受ける。
 - ・支援カードの作成と支援記録簿の検討・作成。変容と成長、課題の把握
 - ・宮城県総合教育センター主催の特別支援研修会への参加

評 価

- 特別支援教育職員の募集を行ったが応募が無く、職員間の連携と研修で幼児に応じた支援を行った。
- 研修や情報交換から、特別支援のあり方、環境構成と教材の工夫などを学び、実践に生かすことができた。

課題と今後の取組

- 保護者、関係機関との連携を緊密にし、一人一人に応じた支援ができるようにする。
- 研鑽を積み、職員の資質向上に努め、指導に生かす。

教育重点施策4 「人・歴史・文化との触れ合いの推進」

平成25年度実施状況

- 地域の方と触れ合い、「大郷町」への信愛の気持ちを高める。
 - ・「道の駅おおさと」での買い物体験を通して、地場産品を知り、地域の方と触れ合う。
 - ・町内のりんご園でりんご狩り体験をする。
- 慶長遣欧使節団出航400年にちなみ、大郷町ゆかりの支倉常長について知らせる。
 - ・支倉常長について話し、運動会でダンス「ロマン航路」を踊る。

評 価

- 「道の駅」での買い物体験は、地場産品を知り、自分で選んだ野菜を買って調理して食べるという経験が、金銭教育と食育につながった。
- 支倉常長の話は難しかったが、幼児なりに理解し、目標をもって協力しながら運動会でダンスを発表することができた。

課題と今後の取組

- 地域の方とのふれあいの機会を年間行事計画に取り入れるなど、意図的・計画的に人や文化に親しめるように実践する。
- 幼児がわかりやすく理解できるため、教材準備や環境構成の工夫が必要である。

教育重点施策5 「教職員の資質の向上」

平成25年度実施状況

- 多様性と関連性を踏まえた指導力の向上をめざした職員研修の充実
 - ・宮城県金融広報委員会より金銭教育研究校として2年間の指定を受け、25年度はその研究の成果を発表した。(金銭教育協議会：公開保育・研究発表・講演会)
 - 研究テーマ：「物やお金を大切にすることを育てる保育」一道の駅ごっこを通して—
 - ・保育実践と反省・検討の蓄積、講師を招いての実技研修、講演会の実施

評 価

- 物やお金を大切にすることを育てるために、便りや講演会などを通して、家庭に啓蒙を図った。幼稚園と家庭が共通のねらいのもと指導したことで「物を大切に扱う」気持ちが育った。
- 活動を通して、友達と協力し合う楽しさや大切さを知り、試行錯誤しながら勤労の苦勞と喜びを味わった。

課題と今後の取組

- 研究で得た成果が継続できるように、今後も繰り返しの指導と啓蒙を図ることが必要である。

教育重点施策6 「関係機関との連携強化」

平成25年度実施状況

- 防災・安全指導。
 - ・宮城県教育委員会主催・学校防災研修への参加及び学校防災計画の作成。
 - ・不審者対応避難訓練、交通安全教室（年1回）・・・大和警察署（大松沢駐在所）
 - ・火災、地震、通報避難訓練、AED研修・・・黒川消防署（大郷出張所）
 - ・引き渡し訓練・・・保護者 ・通園バス避難訓練・・・朝日観光
- 特別支援指導・・・宮城県総合教育センターでの研修、教育相談
- 職員研修・・・指導主事訪問（仙台教育事務所）、研修・講演（金融広報委員会）

評 価

- 防災・安全指導は、多様な危険災害を想定して避難訓練を実施した。幼児の防災意識も高まり、事態によって避難方法が違うことも身についてきている。
- 各機関と連携を図ることにより、安心して保育に取り組むことができた。教育効果も高まり、一定の成果をあげることができた。

課題と今後の取組

- 園内では想定できる範囲の防災訓練を実施した。実際、災害が起きたときに地域との連携も必要になってくると思う。それを想定して対応を確認しておく必要がある。
- 不審者対応避難訓練はいろいろな場面の侵入を想定して、多方面から考えた訓練が必要である。

教育重点施策7 「教育環境の充実」

平成25年度実施状況

- イチョウ・カエデなど植樹を行い緑化の推進
- 臨時の預かり担当職員の配置（2名）
- 東日本大震災で破損した壁紙・側溝の修理

評 価

- 通年の預かり保育を実施したことにより、保育園からの転入者もあり、一時預かり保育を含めて、家庭教育の一助の役割を果たした。

課題と今後の取組

- 継続的な預かり保育担当職員の配置と職員の資質向上
- 暴風・防砂対策として園庭の芝生植栽などの検討。環境維持の為、草刈作業の強化。砂山の整備。

(2) 義務教育 (小学校)

教育重点施策 1 「特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進」
<ul style="list-style-type: none">・学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進・特別支援教員補助者・スクールカウンセラーの配置
平成 2 5 年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・協働教育推進のため、学校支援員が週 1 日来校し、地域人材の活用や地域素材について連絡調整をしていただき、全学年で多くの皆さんに支援していただく。・教員補助者を 6 名配置していただき、低学年 4 クラス， 3 年生，郷の子学級の支援に当たることができた。
評 価
<ul style="list-style-type: none">・学校農園の整備、サケの体験学習、米作り、読み聞かせ、ミシンの指導補助等、児童が学習する際のねらいを達成することができた。・教員補助者が支援を要する児童へ個別に対応することで、担任は一斉授業を計画的に進めることができた。
課題と今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・年々、支援を要する児童が増えている。今後も支援を要する児童が早期に学校生活に慣れ、適応できるよう教員補助者の配置が必要である。

教育重点施策 2 「幼・小・中一貫教育の充実」
<ul style="list-style-type: none">・子どもの特性の理解と、個に応じた継続的指導の推進・子どもの校種間交流の推進
平成 2 5 年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・就学前に一日体験入学を設けている。中学校と小学校卒業生の引き継ぎを行った。・大郷小学校の運動会では、次年度入学する園児の参加種目を設け、逆に大郷幼稚園・大郷保育園では運動会に小学 1 年生が参加して交流を図っている。・大郷町生涯学習フェスティバルへ 4 年生と郷の子学級が参加し、幼・小・中の児童・生徒の交流を図った。
評 価
<ul style="list-style-type: none">・未就学児童が小学校の運動会行事へ参加してもらい入学への期待感を持たせることができた。・町生涯学習フェスティバルで幼・小・中の児童・生徒が同じステージで発表し、交流が図られた。
課題と今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・幼・小・中の活動で、子どもの理解が図れるよう今後も継続が必要である。

教育重点施策3 「豊かな人間性と生きる力の育成」

- ・心が響きあう人間関係の樹立
- ・学校不適応児童・生徒への指導充実

平成25年度実施状況

- ・全校たてわり活動や交通教室などにおける異学年児童での活動を計画的に実施し、交流を図った。
- ・学級で発達課題を抱えている児童のために、学校での相談体制を整え、通級指導教室への理解を高めるよう努めた。

評 価

- ・児童が学級をはじめそれぞれの集団で、関わりながら過ごしていた。
- ・通級指導教室への保護者の理解が高まり、通級への相談が増加している。

課題と今後の取組

- ・よりよい人間関係を築くためにより客観的な調査（WISC-IV）等の購入やその後の活用も図って進める。

教育重点施策4 「確かな学力の向上」

- ・少人数指導の充実
- ・宮城教育大学との連携による、課外指導の充実

平成25年度実施状況

- ・今年度、学力テストの結果から少人数指導を5、6年生で取り入れた。
- ・長期休業中にサマースクール・ウィンタースクールを実施し、大学生のボランティアによる課外指導を行った。

評 価

- ・通常の学習より少人数学習の方が、個に応じて指導できるため、算数の学習内容の理解度がよかった。
- ・自ら学ぶ機会を設け、大学生ボランティアの協力を得て、児童の学習意欲を高めることができた。

課題と今後の取組

- ・統合による学級人数増加による児童負担を減らすよう少人数指導の継続、充実を図る。
- ・児童の主体的学習を促すためにサマースクール、ウィンタースクール、授業での学習意欲を高めるとともに家庭学習への意欲付けを図っていく。

教育重点施策5 「確かな体力の育成」

- ・ 個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と実践
- ・ 学校の環境を生かした体力づくり計画作成と実践

平成25年度実施状況

- ・ 体育部を中心にスポーツテストの結果からデータを分析し、実態を把握する。
- ・ 業間、昼休みに児童が運動に親しんだり、遊んだりすることができるよう工夫して取り組む。

評 価

- ・ 全児童のバス通学と徒歩通学の体力についてクロス集計から差異が見られないことが把握できた。
- ・ 業間休み時間には、遊具で遊ぶ下学年児童が多く見られ、運動に親しむことができた。

課題と今後の取組

- ・ スポーツテストの調査結果から、どの学年も走力に課題が見られた。走力向上への取組が必要である。

教育重点施策6 「特別支援教育の充実」

- ・ 障害・発達の状況に応じた指導計画の立案と実践
- ・ 普通学級・地域との交流推進

平成25年度実施状況

- ・ 障害種ごとに指導計画、個別の指導計画を立案し、実践を行った。
- ・ 協力学級とは、体育・音楽・図工を中心に交流学习を行い、郷の子学級内での合同学習も行った。
- ・ 大郷町生涯学習フェスティバルに特別支援学級の児童で編成した演奏を行った。

評 価

- ・ 郷の子のクラスが連携し、障害種を越えた児童理解や対応で指導支援を行うことができた。
- ・ 生涯学習フェスティバルでの演奏を地域の方にも聞いていただき、幼稚園のクリスマス会での招待参加も行った。

課題と今後の取組

- ・ 特別支援教育について一層の理解を促すため、今後とも全保護者への啓発が必要である。

教育重点施策7 「魅力ある教育環境の整備」

- ・安全で信頼される教育環境の整備
- ・地域の教育力を生かした学習環境の創設

平成25年度実施状況

- ・毎月、全職員で施設・設備の点検を実施している。改修・補修できる事は職員で行うが、できない事は教育委員会へ報告し、修理を依頼している。
- ・学校支援ボランティアを活用し、地域の教育力を生かした特色ある活動を実践した。

評 価

- ・適宜、修理や報告を行っている。
- ・多くのボランティアが来校し、指導や支援をしていただいた。昨年度から新たにしめ縄づくりやさけとば作り等ボランティアの方に教えていただいた。

課題と今後の取組

- ・児童の実態を基に、地域の教育力をどんなところに活用するか全職員の共通理解のもと進めていく必要がある。

教育重点施策8 「教職員の資質向上」

- ・多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
- ・使命感の高揚と実践能力の向上を図る研修の充実

平成25年度実施状況

- ・校外で実施される公開研究会・研修会へ積極的に参加を促すとともに、参加した職員から研修内容の伝講会を開催した。
- ・小・中学校学力向上対策委員会の開催と相互授業参観の実施。

評 価

- ・研修に参加した職員から、伝講を受け、参加していない職員と研修内容の共有を図っている。
- ・今年度、小学校での外国語活動、算数、国語の授業を中学校教諭が参観し、教科指導上のアドバイスを受け、課題を考えることができた。

課題と今後の取組

- ・学校課題に合わせて、その指導にふさわしい外部人材の活用等も視野に入れ、教員の指導力向上に努める必要がある。

(3) 義務教育 (中学校)

教育重点施策 1 「特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進」
<ul style="list-style-type: none">・ 学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進・ 地域文化との触れ合いによる郷土愛の育成
平成 2 5 年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・ 運動会や合唱コンクールは保護者、地域の方々へ案内を出し、町内 1 校として、地域の行事としての側面も持たせた。・ 生涯学習フェスティバル、おおさと夏祭りへの生徒の参加を支援した。
評 価
<ul style="list-style-type: none">・ 公開している行事には、多くの保護者、地域の方々に参加してもらい、教育活動の成果を見てもらった。
課題と今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・ 授業参観については、学年・学級懇談会への参加者が少ないのが課題となっている。内容の工夫をするなど、今後とも参加者を増やす努力を続けたい。

教育重点施策 2 「幼・小・中一貫教育の充実」
<ul style="list-style-type: none">・ 子どもの特性の理解と、個に応じた継続的指導の推進・ 他校種の指導内容を理解する教員研修の充実
平成 2 5 年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・ 新入生を迎えるにあたり、新入生保護者説明会、小学校との引継の場を設置した。・ 町内幼稚園・小学校の指導主事訪問や校内研修の参観を推進した。
評 価
<ul style="list-style-type: none">・ 情報を共有することによって、円滑な接続が図られた。・ 他校種の指導の在り方について理解が深まった。
課題と今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・ 引継時だけでなく、定期的な情報交換ができるとより効果的である。・ 授業の参観だけでなく、検討会へ参加できればより研修が深まると考えられる。

教育重点施策3 「豊かな人間性と生きる力の育成」

- ・ 生きる力を高める道徳教育の充実
- ・ 心が響きあう人間関係の樹立

平成25年度実施状況

- ・ 別葉の作成と年間指導計画の見直しを行った。
- ・ Q-U調査を実施し、結果の分析を学級づくり、教科指導に活用した。

評 価

- ・ 学校の諸活動を道徳の価値項目に基づいて見直し、年間計画に反映させることができた。
- ・ Q-U調査の分析結果を学習指導案に反映させ、効率的なグループ学習が実践できた。

課題と今後の取組

- ・ 単位時間の道徳の授業の充実と資料の累積が来年度の課題である。
- ・ 行事等における学級・学年集団のまとまりを普段の生活にも反映させることが課題である。

教育重点施策4 「確かな学力の向上」

- ・ 個の能力に応じた指導の工夫と実践
- ・ 保護者との連携を強化し、学ぶ意欲の高揚と家庭学習の推進

平成25年度実施状況

- ・ 学習評価の研修を深め、個々の学習状況をきめ細かに見取り、すべての生徒を十分満足できる状態に高めるための手立てを工夫し、授業を実践した。
- ・ 定期テスト前に「家庭学習推進期間」を設定し、家庭学習の定着を図った。また、家庭訪問や三者面談を活用し、個別の学習の目標を具体的に共有した。

評 価

- ・ 評価方向と見取りについて研修を深め、指導と評価の一体化が意識されるようになった。
- ・ テスト前の家庭学習について、家庭の理解と協力を得ることができた。

課題と今後の取組

- ・ 授業で定着が不十分だった生徒に対する放課後などの指導時間の確保が難しい。
- ・ 普段の家庭学習の習慣がなかなか定着しない。

教育重点施策5 「確かな体力の育成」

- ・ 個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と実践
- ・ 食育指導の充実

平成25年度実施状況

- ・ スポーツテストの結果に基づき、保健体育の授業、部活動の時間を中心に意図的に体力の向上を図った。
- ・ 給食委員会を中心に、「黙々配膳」「残食0」などを給食の目標として、食に対する意識を高めた。

評 価

- ・ 駅伝大会の練習に参加する部が増えるなど、体力向上への意識が高まってきた。
- ・ 落ち着いた状態で準備をし、食べ物を大切に食事をする事ができた。

課題と今後の取組

- ・ 運動部以外の生徒について、運動量確保のための手立てが必要である。
- ・ 今後、栄養士と連携し、食材や調理に関する内容についても指導していきたい。

教育重点施策6 「特別支援教育の充実」

- ・ 普通学級・地域との交流推進

平成25年度実施状況

- ・ 技能教科、総合的な学習の時間は、協力学級で学習を行っている。行事については、可能な限り協力学級の一員として参加できるよう配慮した。

評 価

- ・ 協力学級での学習、活動を通して人とかかわる力が育ってきた。

課題と今後の取組

- ・ 支援を行う人員の確保などを考慮する必要がある。

教育重点施策7 「魅力ある教育環境の整備」

- ・安全で信頼される教育環境の整備

平成25年度実施状況

- ・毎月20日に安全点検を実施し、危険箇所の把握を行い、校内で補修・整備ができない部分は教育委員会に報告した。
- ・生徒下校時には、職員が分担で下校指導を行い安全に配慮した。

評 価

- ・教育委員会への報告に基づき、速やかな対応がなされている。

課題と今後の取組

- ・駐車場が狭いので、特に下校時の車の混雑には危険を感じている。

教育重点施策8 「教職員の資質向上」

- ・多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
- ・使命感の高揚と実践能力の向上を図る研修の充実

平成25年度実施状況

- ・校外への研修会への積極的な参加を推進するとともに、成果を共有するための伝講会を実施した。
- ・教員を2グループに分け、グループごとに指導案検討会を行い、校内における授業研究を実践した。

評 価

- ・秋田県の学力向上のための施策や学校現場で実践について研修し、成果を共有することができた。
- ・グループごとに研究授業の準備を行い、授業意図の理解が深まったため、検討会を活性化することができた。

課題と今後の取組

- ・研修センター主催の研修会への参加を促し、より多くの教員が研修できるよう配慮していく必要がある。
- ・授業力向上のため、校内授業研究の回数を増やすことを検討していきたい。

(4) 学校給食

重点施策1 「安全でおいしい給食の提供」

平成25年度実施状況

- ・学校給食用食材の放射能測定検査を実施し、町のホームページで情報を公開した。
- ・地場農産物や旬の食材を活用した献立の工夫や、子どもたちの要望を取り入れたリクエスト給食を実施した。

大郷産新米ササニシキを給食に取り入れた。

支倉常長公出航400年を記念しスペイン料理を給食向けにアレンジした特別メニュー献立「学校給食にスペインの風を」を実施した。



学校給食メニューの一例
支倉常長公出航400年記念特別メニュー

・メニュー

バレンシア風ピラフ
いわしのエスカベッチェ
じゃがいものアリオリソース
コシード

・地場産品

ごはん
なす
玉ねぎ
きゅうり
じゃがいも

評 価

- ・放射能測定検査の結果を公表することで、食材の安全性について情報を共有することができた。
- ・新鮮な地場農産物等の活用や子どもたちの要望を取り入れることで、魅力ある給食を提供することができた。記念すべき年に特別メニューを献立に取り入れ、支倉常長公の偉業を感じてもらえた。

課題と今後の取組

- ・放射能測定検査については、保護者等の食材に対する安心を高めるために、継続して取り組む。
- ・継続した地場農産物等の活用を図るとともに、調理等の工夫や子どもたちの要望も取入れながら、おいしい給食の提供に努める。

重点施策2 「食育の推進と関係機関との連携」

平成25年度実施状況

- ・栄養士が幼稚園、小学校、中学校を訪問し、給食時の子どもたちの様子の把握や給食に対する理解を得るための活動を行った。
- ・給食運営委員会や給食主任者会、地場農産物利用推進委員会を開催した。



大郷小学校（5年生）での学校訪問の様子

評 価

- ・栄養士が学校を訪問することで、子どもたちの給食の様子を把握することができた。
- ・各種会議を開催することで、給食運営に対する貴重な意見や情報の共有化を図ることができた。

課題と今後の取組

- ・学校における食育の「生きた教材」となる学校給食の充実を図るため、今後も関係機関の連携と情報の共有化を推進していく。

重点施策3 「学校給食施設・設備の整備・充実」

平成25年度実施状況

- ・学校給食従事者の男子休憩室と兼用の事務室を独立した部屋とし利用できるよう改修した。
- ・学校給食の提供に支障がないよう、空調設備保守点検など設備の保守点検を行った。

評 価

- ・配送業務と調理を兼務する男性従事者の休憩場所を確保することで、労働環境面の向上が図られた。
- ・定期的な保守点検で、給食提供に支障のない設備運営ができた。

課題と今後の取組

- ・学校給食センターは、建設後15年が経過しており、施設・設備の老朽化が懸念される。衛生管理を充実させるためにも今後計画的な整備を図っていく。

2 生涯学習の推進

(1) 社会教育の充実

教育重点施策1 「社会教育の活性化」

平成25年度実施状況

- ・ 町民の学習成果の発表の場として、第18回生涯学習フェスティバルを10月26日（土）に開催した。フェスティバルには、幼稚園・保育園・小学校・中学校の児童生徒のほか、文化協会加盟団体など22団体が出演した。作品展示の部では、公民館各種講座などで制作した作品の展示が行われた。
- ・ 協働教育プラットフォーム事業は、コーディネーターや支援ボランティアの協力のもと、次の事業を実施した。

事業名	内容	人数
家庭教育支援	子育て支援チーム「ぽっかぽか」講座 家庭教育学級「みんなともだち」	参加者約212名
学校教育支援	学習支援19回、読み聞かせ4回、環境整備10回、登下校安全指導200回	ボランティア 955名
地域教育支援	世代間交流事業、ジュニア・リーダー活動支援、自然体験活動	参加者346名

子育て支援チーム
「ぽっかぽか」事業



学習支援
「しめ縄づくり」

評価

- ・ 平成25年度の生涯学習フェスティバルでは、幼・小・中の児童生徒が参加し、多くの町民に対し日頃の学習の成果を発表することができた。
- ・ 協働教育プラットフォーム事業の実施により、家庭・地域・学校をつなぐ仕組みがつけられ、協働による教育活動を通じて、家庭・地域の教育力の向上が図られた。

課題と今後の取組

- ・ 町民が生涯を通じて、いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習のまち」を築くため、町民の生涯学習ニーズ把握に努めるとともに、魅力ある社会教育事業を展開する必要がある。

教育重点施策2 「芸術・文化活動の推奨」

平成25年度実施状況

- 小学生を対象とした「音楽アウトリーチ事業」並びに中学生を対象とした「青少年劇場」を実施した。

事業名	内容	参加者数
音楽アウトリーチ事業	バリ舞踏ワークショップ	小学生406名
青少年劇場	しゃみせんいろいろ	中学生205名

- 町文化協会や町民演劇「おおさと夢劇団」に補助金を交付し、町民の豊かな文化活動を支援した。(文化協会18万円、町民劇場45万円)
- 第12回目となる町民劇場は、12月1日(日)、「明るい農村パートIVもう一つの卒業」と題して公演した。



音楽アウトリーチ事業で、外国の民族音楽を身近に体験した

評 価

- 「音楽アウトリーチ事業」や「青少年劇場」などの事業を通して、児童生徒に優れた芸術文化を身近に観賞できる機会を提供することができた。
- 町民劇場は、今年度で第12回目の公演を迎えるなど、町民手づくりの演劇として、町内外から高い評価を得ている。
- 町文化協会加盟団体は、現在29団体を数え、ほぼ横ばい傾向ではあるが、町民の芸術文化活動に積極的に取り組んでいる。

課題と今後の取組

- 町民劇場が継続して公演活動ができるよう、今後も支援・協力を行っていく必要がある。

教育重点施策3 「家庭及び地域の教育力向上と活性化」

平成25年度実施状況

- ・協働教育プラットフォーム事業の一環として、家庭教育学級「みんなともだち」を年3回実施し、延べ116名の参加を得た。また、子育て支援チーム「ぽっかぽか」を年3回実施し、延べ54名の参加を得た。同じく、食育実践事業として、幼稚園では「すくすく農園」でさつま芋植えやりんご狩りなどを行い、小学校では大豆の収穫や焼き芋体験などを実施した。
- ・放課後子ども教室（郷子舎）事業は、大郷小学校の全児童を対象にして希望者を募り、年間57回実施し、延べ2,003名の児童が受講した。
- ・平成24年2月、大郷町と宮城教育大学は、児童生徒の学力向上や教員の研修などに関する連携協定を締結した。これを受け、平成25年度も「サマースクール・ウィンタースクール」を開講し、計7日間で延べ690名の児童生徒が受講した。宮城教育大学の学生ボランティアにも延べ52名の協力を得た。



宮城教育大学の協力を得て学力向上を図ります（サマースクール）



郷子舎で熱心に学習に取り組む子どもたち

評 価

- ・協働教育プラットフォーム事業において家庭教育事業を実施することができた。食育実践事業では、農業を通して作物の成長の様子に関心を持たせることができた。また、自然の恵みに感謝し、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・放課後子ども教室事業では、地域の方々の協力のもと、放課後、子どもたちが安心して学習やさまざまな体験ができる活動場所を提供することができた。
- ・宮城教育大学との教育連携事業により、児童生徒の学力向上に努めた。

課題と今後の取組

- ・協働教育プラットフォーム事業や放課後子ども教室事業は、平成27年度以降も国・県の補助事業が継続されるか未定であるが、町教育委員会事業として継続していき、家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりの推進を目指していく。

教育重点施策4 「青少年教育の充実」

平成25年度実施状況

- ・ジュニア・リーダー研修会、東北ジュニア・リーダー大会に中・高生5名を派遣した。
- ・10月7日（日）、町子ども会育成会主催の第15回チャレンジランキング大会がフラップ大郷21で開催され、未就学児を含む町内の244名の子どもたちが参加した。町子ども会育成会に対し、運営費補助として10万円を交付した。
- ・青年の自主的な地域活動を支援するため、活動拠点のなかった黒川郡連合青年団に平成24年度から粕川社会教育センターの一角を無償貸与している。また、町青年団に対し、補助として5万円を交付した。
- ・大郷町と災害協定を締結している北海道清水町で交流事業を行い、小・中学生14名が参加し、交流キャンプ、民泊体験等の体験学習を実施した。



北海道の農業機械の大きさに驚く子どもたち



民泊家庭の皆さんと一緒に

評

価

- ・ジュニア・リーダー研修や北海道清水町での交流事業を通し、地域子ども会の中核となるリーダーの養成を図った。
- ・青年団は、地域活動の一環として、今年度も「くろかわチャリティーコンサート」を開催し、その収益金を児童生徒の教育振興のために郡内4町村教育委員会に寄付した。

課題と今後の取組

- ・ジュニア・リーダーの育成支援を引き続き実施していくと同時に、広域（仙台管内・県）各種研修会への参加促進を図っていく。
- ・北海道清水町との交流事業を引き続き実施し、子どもたちの体験学習機会の提供、リーダーの育成を図っていく。
- ・全国の青年団員数は時代とともに減少しており、青年層の青年団離れと地域離れが同時に起こっている。青年が地域の担い手となり、地域づくりの原動力となるように、青年団組織の育成強化を図っていく必要がある。

(2) 公民館事業の推進

教育重点施策 1 「学習意欲が高まる魅力的な環境の整備」

平成25年度実施状況

※平成25年度中央公民館の利用状況

利用区分	回数	利用人数	備考
公民館主催事業	47	756名	
社会教育団体	184	1,810名	
行政機関	80	3,169名	
行政育成団体	38	936名	
スポーツ育成団体（体協・スポ少）	4	65名	
一般団体	92	1,230名	
合計	445	7,966名	

評価

- ・公民館は、住みよい地域をつくるための情報交換の場として、個人やグループが自由にくつろいでいただける地域の”茶の間”であり、知識や教養を身につけ仲間づくりをするふれあいの“館”であることから、安全で安心かつ快適に利用しやすく親しまれるよう維持管理に努めた。

課題と今後の取組

- ・経年劣化が進むにつれ、維持管理等が大変な現状にあり、施設の更新も視野に入れ、安全かつ安心して各世代のライフステージに即した多様な学習機会を提供する施設として、有効に利用できるよう整備及び維持管理に努める必要がある。



大郷町中央公民館

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

①少年教育の推進

平成25年度実施状況

*「YOU・遊・通信」発行

実施時期	内 容	配布対象
7月16日 10月24日	○新刊図書の紹介 ○おすすめ図書の紹介 ○読書活動の啓蒙 ○図書室の利用の仕方 ○公民館事業等の紹介	町内小学生及び 幼稚・保育園児等

評 価

- ・読書活動の啓蒙と児童が参加可能な公民館事業に関する情報提供に努めた。

課題と今後の取組

- ・継続的に発行して、図書室利用や公民館事業への関心を高めるための情報提供をしていく必要がある。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

②青年教育の推進

平成25年度実施状況

*成人式の実施

実施時期	内 容	対 象 者
平成26年 1月12日(日)	○式典と記念撮影及びアトラクション (内容は運営委員会を組織し実施) ※運営委員会開催回数 5回実施	H5.4.2 ~ H6.4.1 出生者 87名

評 価

- ・新成人の門出を祝福し、時代を担う心構えと勇気を喚起させるための新成人者による運営委員会を組織して成人式を実施した。

課題と今後の取組

- ・新成人者で組織する運営委員会の充実を図り、時代を担う心構えを確かなものにする成人式の実施が必要である。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

③公民館教室の開設推進

平成25年度実施状況

* 高齢者教育の推進（ハツラツ倶楽部）

- ・ 高齢者の皆さんが、健康で明るく豊かな人生を過ごすための生きがいを見つけるきっかけづくりとなるための学習会を下記内容で実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月27日（月）	第1回 講話『生涯現役 健康長寿と老いる ショック解決法』	39名
6月17日（月）	第2回 実技『笑顔で楽しく過ごしましょう』	33名
7月10日（水）	第3回 講話『あたたかな心づかいで楽しい生 活を』※マ～どんな合同学習	57名
9月 9日（月）	第4回 創作『たまごの殻で作る縁起小物』	29名
10月 2日（水）	第5回 移動学習『さわやかな自然の中で』	21名
11月11日（月）	第6回 講話『歳をとるのもわるくない』	21名



第二回学習会
「笑顔で楽しく過ごしましょう」

* 婦人教育の推進（マ～どんな倶楽部）

- ・ 現代女性としての知識と教養を高め、女性相互の交流と明るい家庭づくりを図るための学習会を下記内容で実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月12日（水）	第1回 講話『おっぱい体操で美胸Get』	28名
7月10日（水）	第2回 講話『あたたかな心づかいで楽しい 生活を』※ハツラツ合同学習	57名
9月 4日（水）	第3回 創作『和紙を使った季節の折り紙』	25名
10月 9日（水）	第4回 移動学習『婦人会館研修講話と自然 散策（仙台市野草園）』	17名

11月 6日 (水)	第5回 実技『10歳若返りのメイク術』	17名
12月11日 (水)	第6回 講話『いい女 美人の定義とステキな女性』	29名



移動学習「自然散策」(仙台市野草園)

評 価

- ・ 多様化する町民の学習ニーズに応え、公民館定期講座として2講座(ハツラツ倶楽部・マ〜どんな倶楽部)を開設し、生涯を通じる教養等幅広い学習内容での年次計画を立て、地域でいろいろな機会に情報提供できるような方向で学習に臨むよう声掛けをするなど地域活動の参考となるような学習を実施した。
- ・ 2講座の受講者においては、固定化や高齢化傾向が見られることや男女を対象としたハツラツ倶楽部の受講者が女性だけで、男性受講者がほとんどない状況であった。

課題と今後の取組

- ・ 公民館の定期講座は、継続的に計画実施してきた事業であり、今後も幅広い学習内容を検討し、高齢者の生きがいつくり支援、知識・技術及び経験を積極的に社会に役立てる方策のための学習、あるいは、男女共同参画社会の実現に資すべく、その意識高揚の役割も併せ持つような学習内容、女性のニーズに対応した学習内容等を検討することが必要である。
- ・ 受講者の固定化や高齢化傾向等を解消するためのコースの設定等を検討する必要がある。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

④趣味・教養講座等の開設推進

平成25年度実施状況

* 磁器のかんたんアート教室

- ・ 転写紙を用いた簡単な手法での絵付け作業によるオリジナルの作品作りを楽しみ、趣味・余暇活動の幅を広げるきっかけとなることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月21日(金)	第1回『ポプリポットの絵付け』	4名
8月23日(金)	第2回『洗面台セットの絵付け』	4名
10月11日(金)	第3回『ポケットティッシュBOX・プレート絵付け』	5名



磁器のかんたんアート教室学習と作品

* 季節を彩る草花のアレンジ教室

- ・ 草花を使って自分なりにアレンジする手法を学び、趣味・余暇活動の幅を広げたり、家庭生活の充実感を高めたりするきっかけとなることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月13日(水)	第1回『涼しげなガラスの器で水中花に』	16名
9月26日(水)	第2回『エレガントアレンジ』	15名
12月19日(水)	第3回『ドームアレンジ』	14名



*** ラッキー☆健康体操教室**

・身体の要である「骨盤」を中心に、骨格を意識しながら深層内筋を使った小さな動きで歪みを治し、身体機能の改善を図ることをねらいとした健康教室を実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月 4日(火)	第1回～第8回学習会 深層筋肉を使った小さな動きの体操 ・足裏への体験 ・小顔マッサージ	19名
6月18日(火)		17名
7月 2日(火)		14名
7月16日(火)		16名
8月27日(火)		16名
9月 3日(火)		15名
9月17日(火)		10名
10月 1日(火)		15名



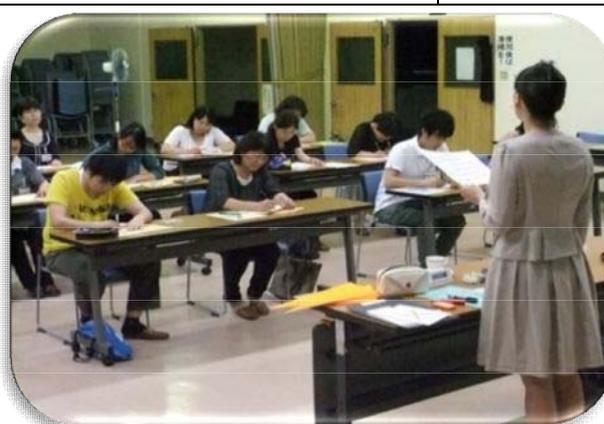
*** 心をつなぐマナー教室**

・第一印象のイメージアップにつながる身だしなみや動作・仕草のポイント、暮らしの中でさまざまな場面に応じた『心づかい』のマナーを習得する機会を提供し、コミュニケーション力の向上を支援することをねらいとして実施した。

(実施時期)	内 容	参加者数
6月25日(火)	第1回 講話と実践練習 『心をつなぐ第一印象好感度アップ術』	19名
7月 9日(火)	第2回 講話と実践練習 『コミュニケーションUP術』	13名



“心をつなぐマナー講座”



* 思い出写真のデコクラフト教室

- ・撮りためた暮らしの記録写真をきれいにレイアウトする技法を学び、趣味の幅を広げ、たのしい育児・たのしい家事の時間を持つことをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
10月 3日(水)	第1回 『お気に入り写真でかわいいカード作り』	9名
11月17日(水)	第2回 『お気に入り写真を使ってアルバムシートにレイアウト』	8名



受講者が安心して受講（託児のようす）

* おもしろ工作体験教室

- ・子どもから高齢者まで、家族・地域の方々と世代を超えて一緒に物を作る時間を持つことにより、ふれあいと共通の話題、完成の喜びを共感し分かち合うことをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
8月 1日(水)	エッグクラフト教室 『たまごの殻を使ったかわいい小物作り』	34名
9月14日(土)	モロヘイヤリース作り教室 『モロヘイヤの茎でハロウィンのリース作り』	20名

評 価

- ・趣味・教養・健康等幅広い多種多様な講座を開設し、講座を通じての仲間づくりから、サークル活動として成長できるように支援し、受講者個々の資質の向上を目指した。また、子どもから高齢者まで、家族・地域の方々と世代を超えて一緒に物を作る時間を持つことにより、ふれあいと共通の話題、完成の喜びを共感し分かち合える機会を提供する教室を実施した。

課題と今後の取組

- ・今後も各種多様な講座を開設し、老後の生活などライフステージに即した学習内容の提供に努めるとともに、サークル活動として自主的活動ができるように努める必要がある。
- ・共通な話題の中で異世代交流ができる講座や男性を対象とした講座・教室の開設をするとともに、サークルが自主活動するための情報等の提供が必要である。

教育重点施策3 「各種団体の活動支援」

平成25年度実施状況

実施時期	内 容
随 時	○町文化協会加入団体及び公民館を拠点として活動している団体・サークルへの助言援助 ○町婦人会連絡協議会活動の助言援助 ○地域コミュニティ（大松沢・ふれあいセンター推進協議会）組織の支援・援助

評 価

- ・町文化協会加入団体、公民館を拠点に活動しているサークル・グループなど、代表者を中心に会員相互の連携をもとに運営している団体に対して、活動助言や施設利用の援助を行った。
- ・婦人団体活動への指導助言、地域コミュニティ（大松沢・ふれあいセンター推進協議会）組織の自主的、積極的活動に対し支援を行った。

課題と今後の取組

- ・各団体が自主的な活動運営ができるよう指導助言に努めるとともに、地域づくりを円滑にするための条件整備を図りながら継続して支援していく必要がある。

教育重点施策4 「出前事業の充実」

平成25年度実施状況

- ・今年度は、地域からの出前事業の利用申し込みはなかった。

評 価

- ・地区住民の自主学習を援助し活性化を図るねらいで、各分館長に働きかけ、地区単位あるいは行政区単位での実施の声掛けをしたが実施できなかった。

課題と今後の取組

- ・人づくりと住みよいまちづくりを目指し、地区住民のニーズに応じた学習の機会の提供や自分たちの抱える問題解決策などを住民が自主的・主体的な活動に展開するための学習情報の発信・支援が必要である。

教育重点施策5 「指導者の研修充実」

平成25年度実施状況

今年度は指導者の養成講座は実施しなかった。

評 価

- ・指導者等の養成講座は実施しなかったが、地域活動のリーダーとしての分館長や読み聞かせボランティアサークルが活動するために必要な情報・資料等の提供を実施した。

課題と今後の取組

- ・町民のニーズに応じたいろいろな事業を展開する上で、必要な指導者（リーダー・ボランティア）の養成講座やスキルを発揮する機会や研修会等を開催する必要がある。

教育重点施策6・7

「地域に根ざした分館活動の活性化支援」

①分館長会議及び活動支援

平成25年度実施状況

実施時期	内 容	備 考
随 時	○分館長会議の開催 ○各種事業への協力 ○各分館活動への活動費交付	

評 価

- ・公民館事業の連絡調整並びに町民へのPR活動や分館活動の活性化を図るために、分館長会議、分館長研修会の開催、黒川郡内分館長並びに分館協力員大会等へ参加するなど、公民館（分館）推進体制の充実強化に努めた。

課題と今後の取組

- ・各行政区の分館長としての役割はさまざまであるが、町民との連絡調整を図り、地域に根ざした公民館（分館）運営活動を行い、地域コミュニティづくりに努める必要がある。

教育重点施策 6・7

「地域に根ざした分館活動の活性化支援」

②分館施設の整備充実

平成25年度実施状況

* 公民館分館の整備充実

- ・川内分館・・・(屋根塗装工事)
- ・吉ヶ沢分館・・・(屋根塗装工事)
- ・石原分館・・・(犬走り改修及びスロープ設置工事)
- ・長崎分館・・・(耐震補強及び床改修工事)
- ・山崎分館・・・(外構災害復旧工事) ※東日本大震災による

評 価

・各分館施設は、あらゆる活動の拠点であり、各行政区長・分館長と協議を実施して施設の環境整備の充実に努めた。

課題と今後の取組

- ・各分館施設は、各行政区のあらゆる活動の拠点であり、災害時における第1避難所としての役割を持った施設でもあることから、逐次、環境整備の充実に努めていく必要がある。

教育重点施策 8 「読書活動の充実」

①公民館内図書室の図書利用促進

平成25年度実施状況

* 公民館図書室の開放

月～金曜日（祝日を除く）は午前8時30分から午後5時まで

毎月第2・第4土曜日は午前8時30分から正午まで

(今年度の図書利用状況：利用者数延べ1,640名・利用冊数延べ3,776冊)

* 移動図書（出前図書室）

児童クラブ等へ図書の貸し出しを行った。

評 価

- ・町民への貸出し本を各分野・分類ごとに整理するとともに、町民の読書意欲が高まるような情報の提供、出前図書室（移動図書）などを実施した。

課題と今後の取組

- ・図書室の図書管理の利便性を向上させるために、次のことを検討する必要がある。
 - 図書室開放時間の見直し
 - 司書または図書業務専任職員の配置
 - 図書選定基準等の設置
 - 図書管理システムの導入及び図書室設備の充実

教育重点施策 9 「読書活動の充実」

②おはなし会の実施

平成25年度実施状況

* たのしいおはなし会

実施時期	内 容	参加者数
8月 9日 (金)	読み聞かせ・童謡・ハンドベル演奏を実施 ※読み聞かせサークル「どんぐりの会」	20名



“思わず絵本の世界に引き込まれます”



『ハンドベル演奏』

評 価

- ・読書意欲が高まるよう、読み聞かせサークル「どんぐりの会」の協力をいただき「おはなし会」を実施した。

課題と今後の取組

- ・読み聞かせサークル「どんぐりの会」の活動や読み聞かせボランティア養成講座等を通して、公民館図書室の充実を図り、今後違った形で町民に活用していただけるような企画運営を考えていく必要がある。

(3) 社会教育施設

教育重点施策 1 「施設の整備・充実」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・町文化会館のホールが安全かつベストの状態で使用できるように、電動椅子・音響設備・舞台吊物・空調設備の保守点検を行った。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・町文化会館に研修室を設置したことにより、各種団体の研修や会議の場として広く活用されている。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から大松沢と粕川の旧小学校を地域の社会教育センターとして活用している。しかし、両センターとも体育館以外の一般の利用状況は少ない現状にあることから、今後、施設の有効活用を図る方策を検討しなければならない。 ・町文化会館は、建築後29年が経過しており、外壁等の汚れなどが目につくことから、今後、塗装などの改修工事を実施する必要がある。 ・照明設備・冷暖房設備の老朽化が目立ち、早急に改修する必要がある。 	

教育重点施策 2 「各施設利用手続きの一元化の推進」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から、社会教育・社会体育の全施設の利用申請を海洋センターで受け付けるようにした。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育係と生涯学習係の職員は、平成23年度までは町文化会館で勤務していたが、平成24年度から町海洋センターに移動した。このことにより、社会教育・社会体育施設の利用手続きの一元化が図られた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から町文化会館の事務室が不在となったことから、文化会館利用者へのサービス低下が懸念される。 	

(4) 社会教育指導者との連携

教育重点施策 1 「社会教育指導者との連携」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none">平成24年度において新たに1名の町職員が社会教育主事としての任用資格を得ており、現在、社会教育主事として、社会教育の指導的立場で仕事している。社会教育委員については、定期的に委員会を開催し情報共有を図ったり、各種社会教育委員研修会への積極的参加を呼び掛けたりした。	
評 価	
<ul style="list-style-type: none">平成25年度において本町教育委員会内に3名の社会教育主事が在籍していることは、社会教育や生涯学習を推進する上で、大きな力を発揮できるものとする。	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none">社会教育主事の役割は、生涯学習のまちの構築を目指す上で、ますます重要となってくることから、一定期間社会教育を経験した職員に、今後も社会教育主事の資格取得講習会を受講させていきたい。	

(5) 社会教育団体の活性化・支援

教育重点施策 1 「社会教育団体の活性化・支援」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none">子どもたちの健全な成長を図ることを目的としているPTA活動を推進するため、町PTA連絡協議会を支援・援助した。子育て支援・地域福祉等の社会問題、文化教養の向上に資する学習活動などを展開する町婦人会連絡協議会に対して、助言・支援をした。町子ども会育成会、町青年団などの社会教育団体に対して、支援・援助を行った。	
評 価	
<ul style="list-style-type: none">町PTA連絡協議会や町婦人会連絡協議会などの社会教育関係団体の自主的な活動に対して支援を行うことにより、社会教育の推進を図っている。	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none">現在、粕川地区からの町婦人会連絡協議会への加盟者がいないことから、町全体の組織の再構築が求められている。	

3 生涯スポーツの推進

(1) 生涯スポーツの活性化

教育重点施策1 「生涯スポーツ振興長期計画の策定」	
平成25年度実施状況	
・生涯スポーツ振興長期計画は、平成25年度は未策定だった。	
評	価
・海洋センター改修などの影響もあり、策定には至らなかった。	
課題と今後の取組	
・町民が生涯健康で、生きがいを感じて生活が送れるよう、今後、生涯スポーツの推進計画を策定する必要がある。	

教育重点施策2 「青少年の夢を育む活動の支援」	
平成25年度実施状況	
・本町のスポーツ少年団は、現在、野球・サッカー・剣道・柔道・バスケットボール・卓球・馬術など、計8団体が結成されている。このスポーツ少年団に補助金を交付し、活動を支援した。(補助金額 計26万円)	
評	価
・スポーツ少年団指導者が少年期の発達に応じた適切な指導が実施できるよう、講習会等に派遣し、指導者の知識・技術の向上を図った。	
・社会体育施設の適正管理に努め、スポーツ少年団等が施設を利用しやすい環境づくりに努めた。	
課題と今後の取組	
・子どもの体力向上や健全育成といった観点からも、地域に根ざしたスポーツ少年団活動の果たす役割が一層重要となってきたことから、「町・地域・保護者」が互いに連携し、今後も支援・協力体制を推進していく。	

教育重点施策3 「町民の健康・体力の維持増進を図る活動の奨励と支援」

平成25年度実施状況

・子どもの体力向上実践事業として、大郷小学校で「陸上クリニック」を実施した。

実施期間	内 容	参加者数
10月～11月(3日間)	陸上クリニック「横向き走、バック走、長距離の走り方など」	小学生全員対象
2月(3日間)	ハンドボール教室 「正確なパス・シュートなど」	小学生4～6年生



陸上クリニック



ハンドボール教室

・「おおさとスポーツデー」をおおさと夏まつりと同日に町海洋センターで実施し、ニュースポーツを体験する機会をつくった。

実施期間	内 容	参加者数
8月3日(土)	おおさとスポーツデー 「ユニカール、シャッフルボード、テニス、水泳」	75名

評 価

- ・子どもの体力向上実践事業は、本町では平成16年度から毎年度取り組んでいる。(平成16年度～18年度：文部科学省委託事業、平成19年度～町単独事業)
- ・トヨタ自動車東日本レガロツソの協力の下、本年度初めてハンドボール教室を実施した。

課題と今後の取組

- ・子どもの体力向上実践事業によって、児童の体力・運動能力を的確に把握・分析し、児童の体力向上のための実践的な取り組みを推進していく。

教育重点施策4 「地域をつくるスポーツ活動の奨励」

平成25年度実施状況

- ・スポーツで特に優秀な成績を上げた児童生徒に対し、町長及び教育長表彰を行った。
（個人5名、2団体）また、東北並びに全国大会規模のスポーツ大会に出場した個人（児童生徒10名）、団体（中学校女子卓球部）に対し、奨励金を交付した。

評 価

- ・スポーツの習慣化を図るためには、地域で気軽にスポーツを楽しむことができる場所の確保が欠かせない。4小学校の閉校と同時に、大松沢と粕川の旧小学校を社会教育センターとして活用し、一般開放した。

課題と今後の取組

- ・都市化の進展にともない、人と人とのつながりが希薄化する中で、「する」「見る」「支える」といった多様なかかわり方ができるスポーツは、地域コミュニティの活性化や再生につながるものとして期待されており、今後も奨励していく。

教育重点施策5 「生涯スポーツ団体との連携強化」

平成25年度実施状況

- ・町体育協会には、平成25年度現在、柔道・剣道・弓道・卓球・空手・バスケットボール・グラウンドゴルフ・ソフトボール、テニス・バレーボール・ビニールバレーボール・ゲートボールの計12部が加盟しており、それぞれ地域においてスポーツ活動を展開しているが、本年度、空手・バレーボール、テニスが休部となり、現在9部で活動を実施している。これらのスポーツ活動を支援するために、町体育協会に対して平成25年度補助金を計60万円交付した。

評 価

- ・町体育協会の加盟団体は、平成20年度の17団体をピークに、減少傾向にある。

課題と今後の取組

- ・「町教育委員会・町体育協会・地域」の協働により、町民だれもがスポーツに親しむ環境づくりを形成するための事業展開を図る必要がある。
- ・各競技団体の組織育成を図り、団体の主催や主管による各種大会等を実施するための支援体制を強化していく。

教育重点施策6 「町・教育委員会の主催行事の活性化と、活動継続の支援」

平成25年度実施状況

・今年度、町・教育委員会が主催したスポーツ行事は以下のとおりである。

実施期間	内 容	参加者数
4月21日(日)	B&G会長杯招待少年柔道大会	34チーム 183名
7月6日(土)	支倉常長慶長遣欧使節出帆400年記念大郷町支倉常長親善ゲートボール大会	50チーム 300名
8月3日(土)	おおさとスポーツデー	75名
1月11(土)・12日(日)	一万人寒稽古(剣道・柔道)	238名
2月26(火)・27日(水)	B&G会長杯春季ゲートボール大会	14チーム 65名
3月9日(日)	B&G会長杯県下招待剣道大会	47チーム 240名

一万人寒稽古



春季ゲートボール大会



県下招待剣道大会

評 価

・今年度は、例年実施している大会のほかに、本町にゆかりのある支倉常長慶長遣欧使節出帆400年を記念し、ゲートボール大会を実施した。

課題と今後の取組

・町体育協会や町スポーツ推進委員と協力連携しながら、新たな町民スポーツ大会等の企画・実施が課題である。

教育重点施策7 「ニュースポーツの普及と継続支援」

平成25年度実施状況

- ・近年、全国的に競技人口が増加しているニュースポーツの一つに「グラウンドゴルフ」がある。今年度も引き続き、本町教育委員会主催のグラウンドゴルフ講習会を開催した。(場所：やくらいパークゴルフ場)
- ・8月3日、「おおさとスポーツデー」を開催し、ユニカール、シャッフルボードなどのニュースポーツに住民が触れることのできる機会をつくった。
- ・町社会体育施設には、グラウンドゴルフ、ペタンク、キンボール、スカットボールなどの運動用具を揃えており、ニュースポーツの普及のため、地域行事への貸し出しなども随時行っている。

評 価

- ・今年度は、「おおさと夏まつり」の日程に合わせて「おおさとスポーツデー」を実施し、多くの町民がニュースポーツに触れる機会をつくった。

課題と今後の取組

- ・ニュースポーツは、今までのスポーツのルールや道具を簡単にして、上手下手、強い弱い、早い遅いに関係なく、中・高年齢の方でも気軽に、すぐゲームができ、適度の運動量があって、しかも楽しむことができることから、生涯スポーツの一つとしてニュースポーツの普及に力を入れる必要がある。

教育重点施策8 「出前活動の促進」

平成25年度実施状況

- ・地域へのスポーツ講座等の出前活動は実施できなかったが、各地区において公民館分館行事としてスポーツ事業を実施しており、ニュースポーツ用品(ペタンク・ユニカール・シャッフルボード等)の貸し出しを行った。

評 価

- ・各地区の公民館分館等からの出前活動の要請がなかったこともあり、地域に出向いてのスポーツ普及活動は実施しなかった。

課題と今後の取組

- ・地域住民が身近なところから健康づくりの活動を充実させるため、今後はニュースポーツなどの「出前活動」を展開し、地域スポーツの振興に力を入れていく必要がある。

(2) 生涯スポーツ指導者の支援

教育重点施策 1 「生涯スポーツ指導者の支援」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員やスポーツ少年団体指導者などを宮城県等が主催する各種スポーツ指導者研修会に派遣した。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ指導者研修会を通して、町内のスポーツ指導者の資質向上を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの普及を図るため、スポーツ推進委員だけでなく、スポーツリーダーやスポーツボランティアなどの育成・支援を図っていく必要がある。 	

(3) 生涯スポーツ団体の活性化支援

教育重点施策 1 「生涯スポーツ団体の活性化支援」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会への支援・助成（平成25年度60万円）を行った。 ・町教育委員会主催のスポーツ事業（剣道大会・ゲートボール大会・一万人寒稽古等）を実施した。 ・町スポーツ少年団本部への支援・助成（平成25年度26万円）などを通して、各スポーツ少年団（剣道・卓球・バスケットボール・ミニバスケットボール・野球・サッカー・柔道）の育成を図った。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会や町スポーツ少年団本部への支援・助成などを通して、生涯スポーツ団体の育成を図った。 ・町教育委員会主催事業を通して、生涯スポーツ団体の活性化支援及び各種スポーツの普及・振興を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「総合型地域スポーツクラブ」は、住民が主体になって地域スポーツの振興を図ろうとする新たな試みであり、現在、全国の自治体でその組織化が進んでいる。そこで、本町においては、体育協会の休部団体、中学部活動の休部等の出現を考慮し、設立に向けた環境を醸成していく必要がある。 ・少年期の頃からスポーツ習慣を身に付けることによって、生涯にわたってスポーツを楽しむ基礎ができることから、スポーツ少年団体の育成強化を図る必要がある。 	

(4) 生涯スポーツ施設の整備と活用促進

教育重点施策 1 「生涯スポーツ施設の整備と活用促進」

平成25年度実施状況

- 平成25年度施設整備状況（スポーツ施設）

事業名	整備内容	事業費
施設修繕事業	海洋センター	34,157万円
施設改修事業	大松沢社会教育センター給水管改修工事	3,371万円

- フラップ大郷21は、平成24年度からトヨタ自動車東日本(株)ハンドボール部のホームアリーナとして、週5日の練習のほか日本リーグなどの大会会場として利用されている。
- 町の社会体育施設のほか、休日における学校開放事業として、体育館や校庭の利用がなされている。



海洋センター（着工前）



海洋センター（完成後）

評価

- 生涯スポーツを推進するため、各スポーツ施設の整備充実に努めた。
- 海洋センターの修繕工事については、B&G財団より21,500千円の助成をいただき、外周の塗装・身障者用スロープの新設等の工事を実施した。

課題と今後の取組

- 海洋センタープール濾過機は、昭和60年オープン以来、29年が経過し、老朽化および濾過不足が見られることから、B&G財団に助成を申請しながら、平成27年度において改修を実施していきたい。

4 文化財

教育重点施策1 「文化財の理解」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 大郷小学校の「社会科副読本」の中で本町の貴重な文化財を紹介しており、社会科の授業を通して大郷町の歴史や文化財についての理解を深めた。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> 学校、各種団体、一般町民などが、遺跡等の文化財や町歴史資料館へ足を運ぶ機会は一年を通して少なかった。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> 本町の貴重な文化財について、広く理解を深めてもらうため、町の広報紙やホームページへの掲載などを検討していく必要がある。 学校や各種団体、一般町民などに対し、町指定文化財の学習や見学機会の提供を図る必要がある。 	

教育重点施策2 「文化財の保存・継承」	
平成25年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 町文化財保護審議会委員と共同してパトロールを実施した。(年1回) 町指定文化財の管理業務を地域団体等に委託した。(諏訪古墳、山中古墳、大小寺遺跡、大松沢貝塚、箭楯神社、鹿島神社の5箇所、委託費計18万円) 老朽化した文化財説明板(鶉崎古墳群)1基を新設した。 支倉六右衛門常長子孫の墓整備並びに説明板1基を新設した 町の無形文化財保存会(羽生田植踊、宮林神楽)に補助金を交付した。(計10万円) 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> 遺跡のパトロールを実施し、文化財の現状把握に努めた。 無形文化財保存会に対しては、保存・継承のための助成だけではなく、生涯学習フェスティバルなどにおいて郷土芸能の発表の場を提供した。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> 本町に眠る未指定の文化財の調査・保存を進めていく必要がある。 町歴史資料館については、他施設と関連づけた見学コース設定などを工夫して、町民が興味を持って足を運ぶことのできる施設にしていく必要がある。 	

教育重点施策3 「文化財関係機関（団体）の連携」

平成25年度実施状況

- ・ 県の文化財関係部署や仙台市博物館などの関係機関との協力・連携を図った。
- ・ 町文化財保護審議会を開催し、文化財の保全管理等について協議した。
- ・ 宮城県文化財保護指導員研修会に文化財保護委員と町職員が参加し、研さんを深めた。

評 価

- ・ 文化財保護のため、宮城県文化財保護課などの関係機関との情報交換と連携などを図った。

課題と今後の取組

- ・ 町の貴重な文化財を保全するためには、関係機関や文化財関係者、そして文化財周辺地域住民との連携・協力が一層必要となる。

V 点検・評価に対する学識経験者の意見

【 日下隆郎評価委員による意見 】

1 教育委員会の活動状況について

教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点的に取り組む施策を定め、これを基に各種の事業を展開しており、さらに毎月1回の定例会と必要に応じて臨時会を開催して、常に事務・事業に検討を加えているとともに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加、学校訪問や視察、定例会終了後の研修等を積極的に行うなど、活発な活動を通じた教育行政の推進に努められていることを高く評価したい。

2 学校教育の充実について

(1) 幼児教育（幼稚園）

「大郷町の乳幼児を保育する」という共通認識のもと、幼稚園と保育園が同じめざす幼児像「じょうぶな子ども（元気いっぱい）・なかよくあそぶ子ども（笑顔いっぱい）・がんばる子ども（夢いっぱい）」を掲げ、幼保連携型の幼児教育を高く評価したい。

「課題と今後の取組」の中で、合同行事の夏まつりは、両園の親子が一緒に参加する唯一の行事にも係わらず、会場が狭いため参加者の人数制限を行っており、しかも乳幼児の年齢を考えると場所を移動しての開催は難しいとのこと。さらに、「幼保一元化の動きに合わせて、各園の保育年限、預かり保育の担当、行事の際の一時預かり担当などについて総合的に機能を改善する必要がある。」とあり、早急な改善策を検討されたい。

(2) 義務教育（小学校）

学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進により、学校農園の整備、サケの体験学習、米作り、ミシンの指導補助等、児童が学習する際のねらいが達成されたこと。特別支援教員補助者の配置により、教員補助者が支援を要する児童へ個別に対応したことで、担任は一斉授業が計画的に進めることができたことは高く評価したい。支援を要する児童が年々増えているとのことであり、早期に学校生活に慣れ適応できるよう継続して教員補助者の配置をされるよう望む。

通常の学習より少人数学習の方が、個に応じて指導できるため学習内容の理解度が良かったこと。自ら学ぶ機会を設け、大学生ボランティアの協力を得て、児童の学習意欲を高めることができたことについても高く評価したい。

統合により学級人数増加による児童の負担を減らすため、引き続き少人数指導の

継続・充実を図りたい。

(3) 義務教育（中学校）

運動会や合唱コンクールは、保護者はもとより、地域の方々へ案内し、町内1校として地域の行事としての側面を持たせたことは喜ばしい。また、生涯学習フェスティバル、おおさと夏まつりへの生徒の参加は高く評価したい。

生きる力を高める道徳教育の充実、心が響き合う人間関係の樹立のため、学校の諸活動を道徳の価値項目に基づいて見直し、年間計画に反映させることができたこと。保護者との連携を強化し、学ぶ意欲の高揚と家庭学習の推進を図るため、「家庭学習推進期間」を設定し、家庭学習の定着を図ったこと。また、家庭訪問や三者面談を活用し、個別の学習の目標を具体的に共有したことは評価したい。

「人間性豊かで未来を志向し、健康でたくましく生きる生徒の育成」を学校教育目標のもと、学校行事や部活動、創意工夫を凝らした学習指導等、先生・生徒たちの努力が見えてくる。今後も魅力ある力強い指導を望む。

※幼稚園・小学校・中学校の共通事項

児童生徒の生活環境は常に危険と隣り合わせにいると言っても過言ではない。登下校時に限らず一歩外に出れば交通事故や変質者との遭遇、場合によっては災害事変に巻き込まれる事例も発生していることから、学校・保護者・地域との連携の下に常に安全に対する教育訓練、防犯についての知識や処し方を身に付けさせることが大切である。

(4) 学校給食

成長期における幼児・児童・生徒にとって発育発達と食との関係は密接な関係があることから、学校給食の果たす役割は非常に大きい。

地産地消を推進するため、地場農産物利用推進委員会と交流給食会を開催することで児童生徒の食育につながり、生産者の良質食材生産の意欲も増すものと思う。

栄養士が学校を訪問することで、子どもたちの給食の様子を把握することができ、さらに子どもたちの希望するメニューを把握し献立に取り入れる等をしてほしい。

3 生涯学習の推進について

町民の学習成果の発表の場である生涯学習フェスティバルに保・幼・小・中の児童生徒のほか、文化協会加盟団体など22団体が出演し会場を盛り上げた。作品展示では、公民館各種講座などで制作した作品展示が行われ、多くの町民が日頃の学習の成果を発表することができたことは大きな成果であり高く評価したい。町民がいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習のまち」を築くため、町民の生涯学習ニーズの把握に努められたい。

町民劇場は、今年度で12回目の公演を迎え、町民手づくりの演劇として町内外

から高い評価を得ている。今後も継続して公演活動ができるよう引き続き支援・協力を行っていく必要がある。

家庭・地域・学校が相互に連携して子どもを育てる協働教育プラットフォーム事業でしめ縄作り指導、読み聞かせボランティア、ミシン指導補助、サマースクール、ウィンタースクール等、学校の要請に応じた学校教育支援、幼稚園でのさつま芋、ぼっちゃんかぼちやの苗植と収穫、さつま芋きんとん作り、小学校での米の種まきと田植え、さつまいも、ジャガイモ、ゴーヤ、かぼちや、枝豆等の苗植えと収穫及びそれらの食材を使った料理作りなど、学校教育の中で地域の方々の協力を得て食育の推進を図られていることは高く評価したい。

しかし、協働教育プラットフォーム事業が今後も国・県の補助事業として継続されるか未定のようなのであるが、町教育委員会事業として継続することを望む。

公民館事業は、住みよい地域づくりの情報交換の場として、安全で安心かつ快適に利用しやすい場でなくてはならない。経年劣化が進む中央公民館は、多様な学習機会を提供する施設として有効に利用できるよう整備及び維持管理に努める必要がある。

4 生涯スポーツの推進について

町民一人ひとりがスポーツを楽しみながら健康増進を図るには、気軽に利用できる施設の確保が必要になる。東日本大震災の被災により長期にわたって使用できなかった施設も早期の復旧により再び平常どおりに利用できるようになったことは喜ばしい。

また、地域住民が身近なところで健康づくりの活動を充実させるため、ニュースポーツなどの出前活動を積極的に働きかけ、地域スポーツの振興を図られたい。

海洋センターのプールが濁っていると聞くが、昭和60年にオープン以来29年が経過しており、老朽化による濾過不足が懸念されるので、衛生上からも早急な改修を望む。

5 文化財について

町内には、誇れる文化財が多く現存するが、町民の多くは文化財への関心が低く一層の啓発が必要である。このことから、各地域に現存する文化財について地域住民を対象に町文化財保護審議会委員の協力をいただき説明会を開催するなどして、文化財への関心を高めることが必要である。

大郷小学校の「社会科副読本」の中で本町の貴重な文化財が紹介されており、社会科の授業を通して大郷町の歴史や文化財についての理解が深められている。今後とも「社会科副読本」が継続して発行されることを望む。

【 若松ヨシ子評価委員による意見 】

1 学校教育の充実について

(1) 幼児教育（幼稚園）

幼稚園と保育園が「大郷町の幼児を保育する」という共通認識のもと同じ「めざす幼児像」を掲げ両園の特質を生かしながら保育に取り組むという「幼保一体化した教育の推進」は達成されていると思います。これは他の町に先駆けて幼保一体教育に取り組んでいる両園の先生方の努力があるからだと思います。幼保一体教育は幼稚園・保育園単独で保育するよりも難しく大変なことも多々あることと思います。両園の先生方の愛情と英知で心をひとつにして常に研鑽を積み、これからも大郷の幼児のために、保育に当たっていただきたいと願っております。

「特別支援教育の充実」にも力を入れていることは、町民として大変うれしく思います。親御さんにとっては本当にありがたいことと感謝していることでしょうか。一人一人の発達に目を向け、成長を見守り、そして保護者の不安を取り除いて将来に希望がもてるような特別支援教育にしていきたいと願っています。

防災・安全指導は、多様な危険災害を想定して避難訓練を実施されていて、そのことで園児の防災意識も高まり、きちんと身に付いているということで安心しました。ほとんどの園児が通園バスを利用しているので、通園バス運行時に事故や地震が起きた時のことも想定して訓練を徹底していることと思います。これからも保護者と密に連絡を取り、常に園児の安全を第一に考えてください。

一時預かり保育に加えて、通年の預かり保育を実施していることは、就労している保護者、特に母親にとっては大変ありがたいことです。先生方のご苦労は大変なものと思いますが、保護者の皆さんがとても感謝していますのでこれからも続けていただきたいと思います。

地域との触れ合いを大切にし、常に社会に目を向け金銭教育等を取り入れたり、また保護者のニーズに応えるために質の高い保育をめざし日々研鑽を積み努力している先生方に敬意を表します。

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」とロバート・フルガムが言っているように、幼稚園は人間形成の大切な時期の教育を担っているわけです。常に家庭と連携を図りながら、園児一人一人の個性を理解し、それを尊重して愛情豊かに大郷町の子どもたちが育てられることを望んでいます。

教育委員会として幼児教育についてあらゆる面で適切に点検と評価がされており、指導も行き渡っていて高く評価できるものです。

(2) 義務教育（小学校）

「特色と活力に満ち信頼される学校教育を推進」のもと学校・家庭・地域の協働に

よる学校づくりが進められている様子がうかがえます。地域人材・地域素材を活用しての学校農園活動、サケの体験学習、米作り、しめ縄作り、サケとば作り等の行事に子どもたちが嬉々として取り組んでいる姿が浮かんできます。また、教えてくださる地域の皆さんにとっても大変有意義なことで、誇りに感じていらっしゃると思います。これからもいろいろな機会に地域人材を活用してください。皆さん喜んで積極的に協力してくださることと思います。

平成25年度学校教育重点施策「子どもの多様な能力や学習意欲を高め、自立して生きるための基礎・基本の確実な定着を図り、夢と志を持ち、その実現に向け努力する子どもの育成に努める。」というように学校は「豊かな人間性と生きる力の育成」と同時に「確かな学力の向上」がなければなりません。一人一人の児童に確かな学力を身に付けさせるために少人数指導や課外指導等の充実を図っていることに敬意を表します。学力が身に付けばさらに学習意欲が高まり、学力の向上につなげることができるわけです。そのために教職員も常に指導力向上を図る研修を積んでいろいろ指導方法を工夫し、児童に自ら学ぶ機会を設け学習意欲を高めさせることに力を入れている様子が伝わってきます。

新しい小学校を立派にスタートさせ、そして町民の期待に応えて着実に前進させており、教育委員会としての目的達成のための指導と点検・評価を高く評価します。

(3) 義務教育(中学校)

大郷町の教育基本姿勢の「学校や家庭及び地域社会が協働しながら教育を推進する。」を具現化して生涯学習フェスティバル、おおさと夏祭り等への生徒の参加の支援や、運動会、合唱コンクール等の学校行事に地域の行事としての側面を持たせて、多くの保護者・地域の方々に参加してもらい教育活動の成果を見てもらっているという積極的な教育姿勢に敬意を表します。

「豊かな人間性と生きる力の育成」や「確かな体力の育成」と「確かな学力の向上」を教育重点施策として位置づけ特に学力の向上に力を入れていることがわかります。生徒が授業において十分満足できれば、学習意欲も高まり確かな学力の向上につなげていけると思います。

そのために教職員は、個に応じた指導の工夫や一人一人の学習状況をきめ細かく見取るために評価方法と見取りについて研修を深め、指導と評価の一体化を定着させており、また秋田県の学力向上のための施策や学校現場での実践について研修を行い、常に「確かな学力の向上」のために力を注いでいる様子がわかりました。今後の課題として「普段の家庭学習の習慣がなかなか定着しない」ことが挙げられています。家庭学習の取り組みも学力の向上に欠かせないと思いますので、学校と家庭が協力して中学生が学ぶことの喜びを感じ、家庭学習の習慣が定着することを願っています。

教育委員会として中学校の教育についても適切に管理並びに点検・評価及び指導が

行き渡っていると高く評価できます。

(4) 学校給食

今日ほど「食の安全」が騒がれている時はないのではないのでしょうか。特に幼児・児童・生徒にとって食は成長にも大きく関わるものだけに食の提供には万全の注意を払わなければいけないことは言うまでもありません。放射能、食品添加物や食物アレルギーなどの諸問題が多くあり、学校給食の提供は本当に大変な仕事であると思います。食物アレルギーでも食材は一つだけではなく個々の子どもで違うわけですから、一人一人完全に把握していないと死につながることもあるので毎日毎日緊張の連続ではないのでしょうか。

これからも放射能測定の結果を公表して保護者等に食材の安全性の意識を高めて、そして保護者の食に対する不安も取り除いてほしいと思います。

支倉常長公出航400年記念特別メニューを子どもたちは喜んだことでしょう。これからも「安全でおいしい給食の提供」を重点施策として食育の推進に努め、新鮮な地場農産物等の活用や子どもたちの要望を取り入れた魅力ある給食、今ではあまり家庭で作られなくなった郷土食や行事食も提供していただき、子どもたちに豊かな食生活を味わわせてください。

教育委員会としての施設・設備や健康管理並びに点検及び評価、指導について高く評価します。

2 生涯学習の推進について

「学校・家庭・地域の強い絆のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。」という大郷町の教育基本方針にのっとり、生涯学習の推進では「生涯を通し自分を磨き、豊かな生活と、活力と潤いのあるまちづくりができる学びを育む」ことをうたっています。この推進の成果は生涯学習フェスティバルの幼稚園・保育園、小学校、中学校の園児・児童・生徒のほか文化協会加盟団体などの22団体のステージ発表や公民館各種講座などで制作した展示発表で証明されていると思います。生涯学習というと大人のものと思われがちですが本町では、幼児から学べるようにいろいろな教室が設定されており、各教室の講師の先生方にも敬意を表します。展示された作品も大変レベルの高いものでした。子どもたちの絵画を見て指導の先生の情熱が伝わってきました。また、生涯学習では学習内容が身に付くだけでなく、仲間づくりや生き甲斐づくりも期待されるものだと思います。

町民劇場は毎年楽しみしていらっしゃる方が多いと思います。大郷町民だけではなく町外の方も楽しみにしていらっしゃる方が多いと聞いています。それだけにこの取り組みに関わっていらっしゃる方たちは大変なご苦勞をされていると思いますが、大郷町の年中行事として位置付けて、いつまでも続けていただきたいと願っています。

教育委員会として生涯学習の推進のため管理及び評価、指導に十分努力していると高く評価できるものです。

これからも生涯学習の推進のため町民の豊かな文化活動の支援をしていただきたいと思います。

3 生涯スポーツの推進について

本町では町民が生涯健康で、生きがいを感じて生活が送れるよう、「生涯スポーツの推進」がなされています。生涯スポーツは中・高年のものと考えられがちですが、長期計画のもと、子どもには体力向上や健康育成、青少年には夢を育む活動の支援をし、それぞれの年代でスポーツを身に付け、生涯にわたってスポーツを楽しむことができるように工夫し、配慮している姿勢に敬意を表します。

子どもの体力向上事業に力を入れ、体力・運動能力を的確に把握・分析し、将来を担う子どもたちの体力向上のために取り組んでいることや、勝敗を競うことに重点を置くスポーツの推進だけではなく、上手下手、強い弱い、速い遅い等にとらわれずに誰もが、特に中・高年の男女が気軽に楽しく参加できてしかも適度の運動量があるように工夫してニュースポーツの普及にも積極的に取り組み、さらに生涯スポーツのため施設整備の充実に努めており町民にとってはうれしい限りです。

これからも老いも若きもスポーツを楽しみ、いつまでも心身ともに健康な生活が送れるようにご指導をお願いします。

教育委員会として生涯スポーツの振興、目的達成のための執行評価、指導に十分努力していると高く評価します。

4 文化財について

(1) 文化財の理解

小学校の「社会科副読本」を作り子どもの頃から本町の歴史や文化財を理解させようとしていることに敬意を表します。子どもを通して町民にも理解を深めてもらいたいと願っています。

常に有形・無形の文化財の保存・継承に並々ならないほど力を入れている様子がうかがえます。なのになぜか町民は必ずしも文化財に対して興味・関心が高いとは言えないようです。本町には遺跡等の文化財が多くあることや貴重な文化財が町歴史資料館に展示されていることがあまり知られていないように思います。町民に遺跡等の文化財や町の歴史資料館に足を運んでもらうためにいろいろな機会に広く呼び掛けていただきたいと思います。

(2) 文化財の保存・継承

有形文化財の保全・管理だけでなく調査・保存にも努めていることは、高く評価で

きるものです。

また、無形文化財の保存は継承・維持をしていかなければならないので有形文化財とは違った難しさがあると思います。生涯学習フェスティバルなどにおいて郷土芸能の場を提供して保存・継承のために力を入れていることに敬意を表します。

(3) 文化財関係機関(団体)の連携

文化財の保全管理は、管理者の研鑽を深めることが大切と考えて研修に取り組み、さらに関係機関との情報交換と連携などを図っていることや、町民への文化財の紹介等から、教育委員会として町の文化財について十分努力していると高く評価できるものです。

支倉常長公が1613年に「慶長遣欧使節」として日本を出航して、平成25年(2013年)で400年になり、特に常長公にゆかりの深い大郷町では400年を記念して常長公に関係していろいろな催しが行われ、あらためて広く町民に常長公の歴史上の偉大な業績を知らしめたと思います。まさに大郷町の教育基本姿勢の「故郷の心を大切に」であります。

これからも町の文化財の調査・管理・保全、そして町民が興味をかきたてられるような提示をしていただきたいと思います。

【 渡邊健一郎評価委員による意見 】

1 学校教育について

小中学校がそれぞれ統合され、幼・小・中一貫教育体制が整ったことで、継続的指導ができるようになったことは大きな収穫であり、今後の学力・知力向上の可能性を感じ期待したい。

いま、学校では「相手を思いやる心を養う」など道徳教育の充実強化を最重要施策としている。「心のアンケート」調査を定期的実施しており、児童の精神状況の把握に努めている。今のところいじめ等の問題はないとのことである。引き続き道徳教育の強化に努めてほしい。

A L Tによる小中学校での英語指導は、効果的に行われており、児童・生徒の英会話力が向上していると伺っている。今日、国際化が進展しているなか、英会話能力は不可欠であり、児童・生徒の英語力向上に向けて更なる指導を願いたい。

日本の大学生は、概して、知識を吸収するだけで、主体的に考える能力を身に付けていないと指摘されている。

大郷小学校では、学校の統合時点から、この問題の重要性に鑑み授業を実施してきており今年で3年目となる。しかし、まだまだ成果が上がっていない。日本人特有の引っ込み思案の性格を持つ児童が多く、先生方も指導が非常に難しいと思案している。このことについて、教員の間で授業の進め方の検討会を開き研究している。また、「教職員の資質向上」施策の一環として教員研修機関に派遣して研修を受けさせている。

考える能力は、幼、小、中の時代から養っていかなければ育たないので、一人前の社会人となるよう考える能力の向上に更に努めてもらいたい。

自分は、教育に関しては素人である。評価する視点は、どうしても自分の社会体験から教育のあり方を考えてしまう。義務教育は、基本的には一人前の社会人（欲を言えば「有用な社会人」）として育ていくために施すものであると考えている。

学校教育関係者も、根本的に考え方は自分と同じであり、義務教育の基本理念を深く認識し、児童一人一人の個性に応じてきめ細かな授業を行っており、学校行事を行っている。評価及び課題と今後の取り組みについては、率直に分析し報告しており研究努力の跡がみられる。

2 社会教育（生涯学習）について

大郷町内の文化団体の活動は盛んであり、活動内容も多種多様で水準も高い。大郷町は町民が文化活動を行ううえでの環境（文化会館、公民館、コミュニティ施設等）が整っており、町の文化関係団体、町民劇団等への指導、支援態勢が充実していることが、町の文化活動の活発化に大きく貢献していると言える。

また、町公民館では、様々な教室を開き新たな教養文化を紹介し、町民の生涯学習意欲を十分に引き出しており努力の跡がみられる。

このように、町では、文化の向上、生涯学習の推進を方針として掲げているなか、十分に成果が上がっていると思われ、高く評価したい。

協働教育事業は、町内ボランティアの協力体制が充実し、大きな成果を上げていると評価したい。ボランティアの方々もこの事業に参加することに生きがいを感じているようであり、子どもたちも学校では学ぶことの出来ない貴重な体験を味わえる。これからも継続的な活動を願うものである。

報告書では、地域コミュニティづくりの中核を担う分館活動が低迷しているとしている。これまで、分館の行事は、子ども向け、一般区民向けのものが主であったが、事業の対象となる子どもの減少、区民の高齢化が低迷の要因といえる。各地域ともに高齢者が増加しているなか、新たに高齢者に寄り添ったコミュニケーション活動などを模索してはどうか。

3 生涯スポーツの推進について

町内のスポーツについては、施設も十分整っており、指導態勢も充実し恵まれた環境にある。教育委員会のスポーツ振興に対する努力と実績は大いに評価したい。町内の子どもたちが生き活きとスポーツに専念している姿は、喜ばしい。

ニュースポーツの普及と継続支援を重点施策としているが、これを是非推進していただきたい。

真夏の盛りに元気よくゲートボールやグラウンドゴルフに興じている病気に無縁な高齢者がいる一方で、足腰が弱く病弱でセッセと病院通いをしている高齢者がおり、増えている。

これから本格的な高齢化社会を迎え、医療費の増加が懸念されているなか、高齢者が勝敗に関係なく気楽に参加でき、健康維持にも役立つニュースポーツの普及が求められる。ノルディックウォーキングで町内史跡巡りを行うなど、スポーツと文化を同時に体験できる企画なども面白いと思う。

4 文化財について

大郷町には、多くの貴重な文化財が存在する。町は、これら文化財の維持管理には十分配慮し実施しているとみている。

かねてから、町民の文化財に対する関心が非常に低いと感じており、町教育課と連携し3年前から町内史跡見学会を企画し、文化協会広報誌「芸文おおさと」で広く町民に参加を呼びかけてきているが、案の定参加者はまだまだ少ない。町公民館や文化協会で、町民の文化財への関心を高めようと呼びかけても限界がある。

町の歴史資料館は、町民や町外の方々が多く集まり気楽に立ち寄りやすい場所、道

の駅近辺にあることが望ましい。資料館で歴史を身近に感じることにより、町民は自
ずと文化財に関心を持つものと考ええる。

一方、町内の22行政区には、それぞれに地域の言い伝えの歴史がある。これも貴
重な文化財といえる。しかし、それら言い伝えに詳しい地域の有識者は高齢化してお
り、亡くなっている方も多いが、後継者がいないのが悩みと聞いている。後継者がい
なくなれば、その地域は歴史空白地になってしまう。

ある行政区では、区内の言い伝えを区の広報誌に掲載し、歴史への関心を高めてい
る実例がある。

地区の分館が、これら地域の歴史保存を担うことについて検討の余地がある。

町としてもこれらの情報の一元化を図ることが必要。しかし、町職員体制だけでは
限界があるので、町内の関係団体等を活用していく方法も考えられる。

欧米では、歴史的遺産を大事にすることは、子供時代から教育のなかで植え付けら
れているが、日本は、これまで近代化が優先という社会風潮であったので、文化財に
対する関心が低いのはやむを得ないことであった。

現在、町内の幼稚園、小学校でも、郷土史教育に力を入れていると聞いているが、
更に研究して成果を上げてほしい。

読み聞かせ会の活動は、子どもの郷土史に興味をもたせるうえで大きな役割を果た
している。このように地域の方々を活用し連携して対応することが必要であると考え
る。